

## 総論

- AIを活用したモノ・サービスをあらかじめ想定した上で、対応方策を講じていく必要があるのではないか。
- ディープラーニングを用いたAIとそれ以外では、実用化が見込まれる時期や実現可能なモノ・サービスの内容等が異なるため、それぞれの状況に応じた対応方策を検討する必要があるのではないか。

## 従来の機械学習等

- 医療介護の質の向上や医療介護従事者の負担軽減等に向けて、早急な実用化が必要ではないか。
- 患者の症状に基づく診療の支援等については、有効性や安全性を確保した上で、患者・国民が広く恩恵を享受できるようにする必要があるのではないか。
- また、学習に用いるためのデータ整備を引き続き行う必要があるのではないか。  
(保健医療分野におけるICT活用推進懇談会で提言された「データ利活用プラットフォーム」等)

## ディープラーニング

- 世界各地で競争が始まったばかりであり、日本の強みを生かせれば日本が世界をリードする可能性があることから、研究開発が早急に必要ではないか。
- 特に、ディープラーニングが得意とする画像診断等の領域について、教師付データの収集体制を早急に整備するとともに、あわせて有効性や安全性を確保するための制度設計を行うべきではないか。